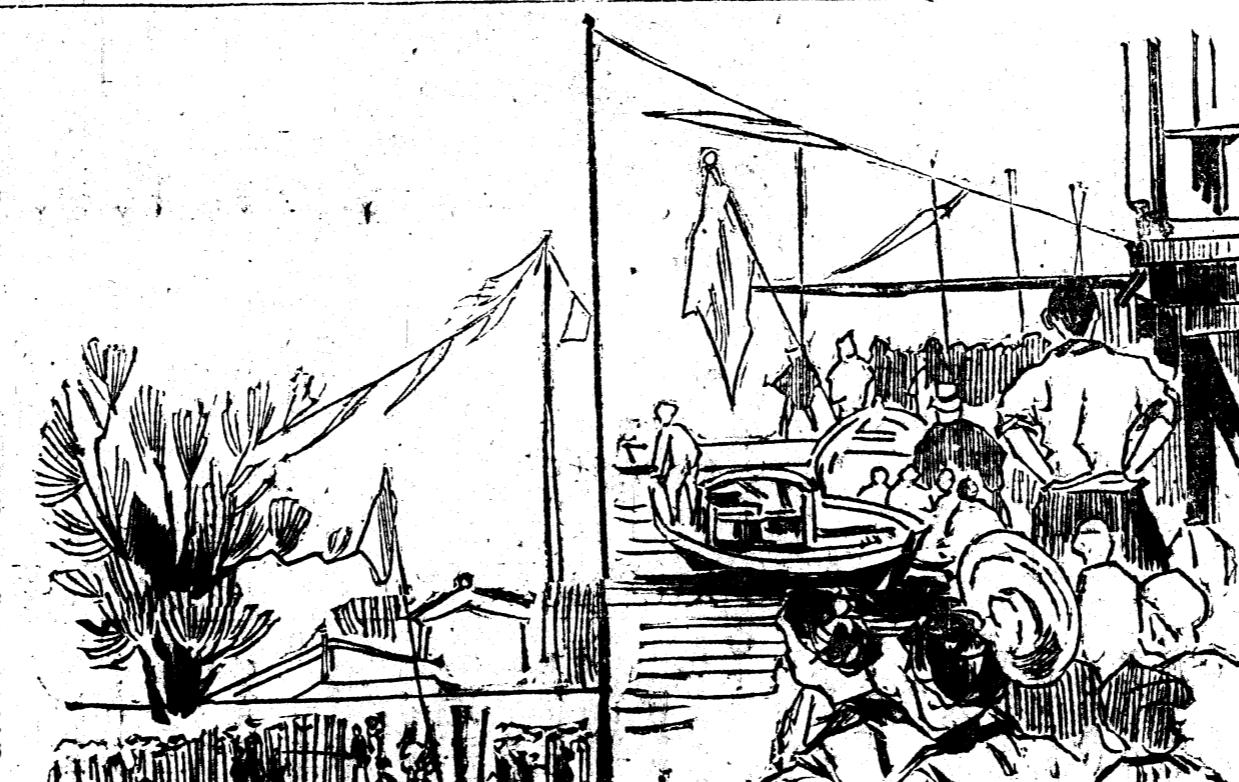


社說

臺灣の當局者は注意を
密にす可し

のよしむれきも内地一线に其本體と知るものは甚ば少なく臺灣と云へば麻烟薯葛の植地と認め戰爭の當に多數の兵士が流行病に罹れたる様状を今に想像してたゞ其地に入るときは生還を期す可らずなと思ふもの多し畢竟報告の不充分にして廣く行亘らざるが爲め外ならず斯る始末にては人と金とを輸入して殖産興業の目的を達するが如き思ひも寄らざる所なれば成るゝ其實況を廣く知らしめて内地人を誘導するの工風とそ肝要なれ是種の事は些細なるに似たれども鷹地拓の上には甚だ大切なり當局者たるもの細大とも注意して其注意の周密ならんみとを要す單純一偏事にして其邊の考に及ばざるは我輩の取らざる所なり

○大阪有志俱樂部の端艇競漕
大阪に於ける各會社銀行有志者の組織せる大阪有志俱樂部は會員相互の交際を親密にし兼ねて體育を獎勵する目的を以て組織せられたるものにして會長には住友吉左衛門氏を推し副會長に田中太七郎氏を擧げ今全く諸事整頓したるにより去る二日の日曜日をトシ第一回端艇競漕會を堂島川に催せり起點は大阪商業會議所前に決勝點は堂島米穀市場より少しく上流に位せず處にあり此間實に六百メートル、俱樂部の會員總數一千五百名、此日の競漕に加はるべき人々は各會社銀行中より選出されたる強のものなれば業務の餘暇漸く織を積たるに過ぎざれども其手並の見るに足るべきもののみならず勝敗の責任は銀行、會社其物の頭人に落ち来るみどり漕手の氣込は平素に倍し關係者に配屬亦大方ならず殊に斯の如き大競漕會は大阪に於ては始めて催されし事なれば來賓及び一般見物人の沿岸に観察するもの幾干なるを知らず櫻花既に散失せり日中は稍々暑に堪へ兼ねる今日此頃時節は少しく遅れにてるも此日は晴へ向きの雲天然かも微雨さへなければ午前八時より一號の空砲を相圖に順次競漕を行へり第一回以下第十二回迄は混合競漕のみとて今まで來者の方は南北の沿岸より相應して漕手の氣込をして居る頃より白の顔色宜く難なく倉庫會社の勝利に歸し第一回(日本銀行、第四十二銀行、混合)は四行の第十五回(日本銀行、住友銀行、明治銀行)は住友行の勝利となり以下失れ(勝敗あり第十九回の競漕郵船會社、三井會社、日本海上保險會社の三艇にしてこれも勝敗あり本社なれば見物人の評も中々に悪く郵船會社のみ本家本元なるのみか近頃支店の副記人に昇進したる久松太郎氏が自ら舵を取り居る



ち或は帽を振りて巧に酒手を屬さし勝を得たる能手其人の功頗る大なりと云ふべし二十三回三井銀行、日本棉花會社、三菱會社の競酒は非常の相達にて三菱の勝となりしは餘り不眞味少なかりし二十四回の來賓競酒以来上等審査署を第一尋常中學校にて昨年の競酒には中學校の敗に歸せしと以て學生の遺憾遺る方なく開港益々習練を積みてや今日の晴れの場に見事腕を作らんとするの意氣、實に於もへからず所岸に黙考せる間に、慈生さては猶次郎の競酒は以前よりランナードと號せ立てたる事ありて聞れど承く御茶の盤北に板子内に第二十五回の開港商業銀行、第一銀行、住友銀行は

日本銀行（白）
三井物産（赤）
三菱金柶（青）

されば民の意氣ひだけにても赤の勝となるべしイヤ
三菱會社もそ平素の腹前最も強かなりなを彼是批評せ
る内郵船と三菱は互角の勢にて進み來り沿岸より之
を望めば兩底の前後更に分明ならず兩會社に從事せる
人々は或は頗る振り威は手を拍打せんばかりに聲援
を與へ一般見物人もあれよゝと叫ぶ間に三菱の底は
僅に半纏身許の勝を占めたり第廿回は三井物産、明治
銀行第三及び第廿二銀行の取組にして此鏡酒も見物人
の手に汗を搾らしめたるが決勝點に近づきてより三井
物産の底色顔に昂り其勝となり廿一回は市立商業學校
の來賓鏡酒、第二十二回は日本銀行(赤)日本海上保險
會社(青)第三十二銀行(白)なりしが青白の二底最も能

又もや住友銀
術門氏之を聞
けり第二十六回
餓酒にして三井
んで潛ぎ出し
と警屬したれど
餘程遅れて見え
の餓酒中々に
同社の占むる事
て第二十八回
時事新報が金
阪の銀行會社